

さけ・ます資源増大対策調査事業（サクラマス幼魚回遊生態調査）

静 一徳

目 的

サクラマスの放流条件、資源変動要因検討のため、北上期のサクラマス幼魚の回遊生態を把握する。

材料と方法

2016年3月～5月に、尻労（大型定置）、関根浜（小型定置）の2地点にて、定置網により混獲されたサクラマス幼魚を、漁業者の協力により日付別に採集した（図1）。採集した幼魚は-30℃で冷凍保存した。内水面研究所へ搬送し、解凍後、尾叉長、体重を測定し、標識（鰭カット、リボンタグ等）を確認した。また、尻労、関根浜において定置網に水温ロガーを設置し、表層水温を計測した。



図1. サクラマス幼魚調査地点

結果と考察

採捕数は尻労125尾、関根浜25尾であった。採捕時期は、尻労では3月下旬～5月下旬で4月中旬に最も多く、関根浜では3月中旬～5月中旬で4月上旬に最も多かった（図2）。尻労の表層水温とサクラマス幼魚の採捕の有無との関係を調べた結果、表層水温約13℃を境にサクラマス幼魚の採捕がなくなり、水温と北上回遊に密接な関係が確認された（図3）。

採捕された標識魚は尻労で1尾、関根浜で0尾であった。尻労では2016年4月19日に左腹鰭標識魚が採捕された。2016年4月19日以前に左腹鰭標識で放流された2014年級サクラマス種苗は、2015年9月30日に石狩川水系千歳川、2015年7月24日に尻別川水系目名川であった。ただし両河川からのリボンタグ標識放流による回遊調査（眞山ら2005）によると、津軽海峡を経る北上回遊経路は確認されておらず、本研究で採捕された左腹鰭標識魚が両河川に由来するかは不明である。

謝 辞

調査にご協力いただいた尻労漁業協同組合の吉田漁業部、関根浜漁業協同組合の高橋専務に御礼申し上げます。

文 献

1) 眞山紘・小野郁夫・平澤勝秋（2005）北海道の河川に放流された標識サクラマスの海洋における回遊生態。さけ・ます資源管理センターニュース，14，1-9.

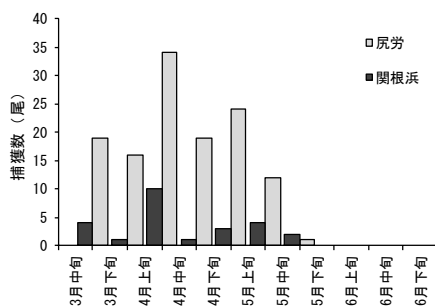


図2. サクラマス幼魚採捕時期

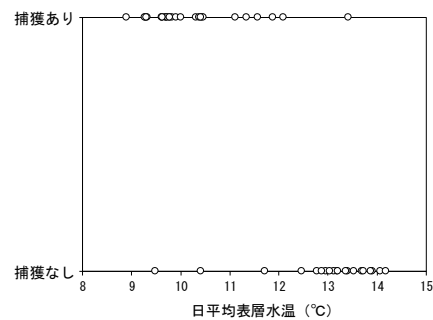


図3. 表層水温とサクラマス幼魚採捕の関係